

講義名	中国語 A			授業形態	
担当教員	小笠原 恵子	開講期・曜日・時間	後期 金曜日 3 時間		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業は、教科書に「中国語入門ルール66」を使用する。番号順に配置されたルールを一つ学ぶ度に、前進を実感して頂けると思う。苦手な項目にチェックを入れたら、見直しも簡単かと思う。入門参考書として手元にあるとありがたい本もある。

各課のQRコードを読み込むと、その課の内容のリスニングが出来る。正しい発音を沢山聴いて発音が強くなってほしい。

準備学修で、リスニングを含む予習・復習をして頂きたいので、随時、宿題を指定したり、小テストを行ったります。

授業中は、ペア、もしくはグループワークで繰り返し発音と文法の練習をする。発音、文法と漢字の書き方が正しいか確認し、暗記する事を求める。

対面授業中は、コロナ感染症対策のため、全員で同時に大きい声を出して発音練習をすることは減るが、可能な範囲内で、授業中で発音し、会話への自信を身に付けてもらいたいと思う。

到達目標

中国語の発音記号（ピンイン）を正しく流暢に読めるようになる。
単語の発音と正しい字の書き方と基礎文型を暗記し、中国語の基礎がしっかり身に付くようになる。
自己紹介が書け、口頭で自己紹介ができるようになる。
基礎会話ができるようになる。
基礎中国語のレベルで、中国語から日本語、日本語から中国語への翻訳と通訳ができるようになる。

提出課題

提出課題：テキストの各ページの書き写しと、練習の問題など、筆記課題として指定する。
課題の提出は、提出日の授業の最初に提出する。出席者だけ提出出来るものとする。出席しない時が提出を認めない。提出締め切り後の提出も認めない。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

宿題と小テスト、中間テストで学生の課外学修を促しながら習得状況を把握し、間違いを指摘し、フィードバックする。

評価の基準

小テストと宿題で30%、中間試験30%、期末試験40%。

中間試験は、第6課終了後に、期末試験は第12課終了後に行う予定であるが、進度によって範囲の変更をする場合がある。授業中の発表が良くできる場合は加点する事がある。

欠席が5回で失格となる。遅刻3回は1回の欠席と換算される。また、授業中に寝たり、お喋りしたり、携帯をいじったりして、授業態度が悪いと、最終成績の評価が低くなる。

履修にあたっての注意・助言他

この授業は、学生一人一人の発音を聴いたり、質問に答えてもらったりするなどの為、座席指定です。
教科書は必ず購入する事。教科書がないと、宿題提出と小テストの勉強に差し支えるし、授業内容が身に付かないため、途中でドロップアウトしてしまうのが通例です。

準備学修では提出課題のみでなく、リスニングと音読みも頻りにやしてほしい。

授業中では、リスニング教材を聴く時はスマホの使用を指示する。それ以外は、スマホの使用を禁じる。
遅刻は3回で1回の欠席とみなすので注意すること。

教科書	.中国語 入門ルール66.	相原 茂 玄 宣博	朝日出版社	2400	9784255453309
-----	---------------	-----------	-------	------	---------------

参考図書

その他

授業計画

1	発音編 1～2課	声調、単母音・副母音・子音・
2	発音編 3～4課	鼻音・発音のつづり、その他
3	以下本編	
第1課	人物代詞、「は～です」の言い方、副詞	
第2課	指示代詞、時疑問文、反復疑問文	
第3課	形容詞述語文、否定文と疑問文	
第4課	助詞「の」「日本語のの」について	
第5課	前置詞「在」「で」	
第6課	数の数え方、年月日、曜日の言い方、「几」「いくつ?」「呢」「～は、	
9	中国試験	
試験後第7課	物を数える、「有」「持つ」、「二」と「両」	
10	第8課	「有」「在」「ある/いる」
11	第9課	二つの「怎么?」「どうして?」
12	第10課	進行の表し方、二つの「在」、前置詞、助動詞1
13	第11課	運動文、使役の表し方、譲語文
14	第12課	不」と「及」-2つの否定のしかた。二重目的語を取る動詞、様態補語
15	総復習	
	備考	

授業の進度はクラスの状態に合わせて適宜調整します。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業ごとにテキスト1課を勉強する予定で、ほぼ毎週宿題として、次の授業で勉強する文法の例文を書き写し日本語を付ける事になります。また、毎週、前の週の単語のディクテーションテストをしますので、リスニングをして漢字を覚えてくる事が必要になります。

週に4時間の準備学修が望ましいです。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成業の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に皆熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
